

桂スチール

構真柱の専用工場開設

11月末完成 月産500トン目指す

桂スチール(本社||兵庫県姫路市、三木桂吾社長)は今年11月末完成予定で、岡山第2工場の近接地に新工場棟1棟を建設する。「構真柱」の専用工場を開設するもので、自社開発した十字柱組み立て設備などを導入する。長期的な国内の鉄骨需要の落ち込みを見越し、主力のBH(ビルトH形鋼)以外の鋼構造物部材の製作体制の整備の一環で、不況時にも安定した経営・工場稼働を維持するのが目的。工場完成後は中期的に、月間300~500トンの構真柱の製作を目指す。

主力のBH製作と二次加工以外に、梁加工、BH向け以外の切板などを手掛けるなど、将来の鉄骨需要の主力のBH製作とそ
落ち込みに対応できる体制整備を進めている。そうした中で、最近では地下構造物が大型化してきており、これらへの対応には鋼製の構真柱の使用が増えている。同社でも以前から構真柱を製作していたが、製作は既存工場の空きスペースなどを利用して行うなど、スポット的な対応となっていた。しかし構真柱の需要

が着実に伸びており、こうしたニーズにきめ細かく対応するには専用工場の建設が必要と判断、今年20日から岡山第2工場の分工場の隣に専用工場棟の建設を開始する。工場概要はS造・平屋建てで、幅22m、長さ56m、建屋面積が12332平方m。積が12332平方m。建屋の完成は11月末。設備は11月中旬に、構真柱の材料となるCT形鋼を十字柱に組み立てる専用機を自社製作する。また、11月末に大東精機製のバンドソーを導入する。バンドソーの仕様は最大で1200mm×1200mm角、板厚で最大80mmが切断できる設備。完成後は構真柱の受注を強化し、BH以外の鋼構造物の製作事業の柱の一つとしていく方針。

が着実に伸びており、こうしたニーズにきめ細かく対応するには専用工場の建設が必要と判断、今年20日から岡山第2工場の分工場の隣に専用工場棟の建設を開始する。工場概要はS造・平屋建てで、幅22m、長さ56m、建屋面積が12332平方m。積が12332平方m。建屋の完成は11月末。設備は11月中旬に、構真柱の材料となるCT形鋼を十字柱に組み立てる専用機を自社製作する。また、11月末に大東精機製のバンドソーを導入する。バンドソーの仕様は最大で1200mm×1200mm角、板厚で最大80mmが切断できる設備。完成後は構真柱の受注を強化し、BH以外の鋼構造物の製作事業の柱の一つとしていく方針。